

平成28年度 施策評価シート

基本目標	安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	440:高齢者が尊厳をもち、安心して暮らせるしくみをつくる
施策	441:元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する
施策の目標	多くの高齢者が、豊かな経験や技能を生かし主体的な社会参加などを通じて、元気でいきいきとした暮らしをしています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「高齢者がいきいきと暮らしている」と思う区民の割合	%	54.0					
シルバー人材センター登録者数	人	2,800	1,985	1,919	1,895	1,930	1,762

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
老人クラブ会員数	人	13,459	13,662	13,733	13,404	13,181

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>1 墨田区シルバー人材センターにおける団塊世代以降の若年層の会員への取込みと、そのための事務系、IT関連及び介護(介護予防)部門等の職種やジャンルの開拓が課題である。</p> <p>2 団塊の世代をはじめとした、福祉の担い手としての新たなかわり方や多様なニーズに対応するために、セカンドライフ支援策等の推進を通して、ボランティア団体等を育成していく。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】
<p>シルバー人材センターの会員数は前年度比で微減しており、平成27年度の事業実績は、公共事業が前年度比で3.78%増、民間事業は4.84%減で全体では0.24%の実績減となっている。引き続き経費節減などの効率的な運営に努力するとともに、民間をターゲットとした新規就労分野の開拓等受注増に向けて一層の努力をする必要がある。</p>
【今後の具体的な方針】
<p>1 墨田区シルバー人材センターにおける受注増に向けてのPR活動の展開及び会員のスキルアップの推進に向けた支援を引き続き行う。</p> <p>2 てーねん・どすこい倶楽部を活用し、団塊の世代の参加に考慮したセカンドステージ支援事業を推進する。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	高齢者補聴器購入費助成事業	高齢者福祉課	540	現状維持	事業開始(平成27年9月から)からの期間が短いため、今後の動向により判断する。
2	ふれあい給食事業助成	高齢者福祉課	2,728	現状維持	現状を維持しつつ、今後の保育施策や人口動態を踏まえた計画を立てていく必要がある。
3	セカンドステージ支援事業	高齢者福祉課	2,911	現状維持	退職後間もない55～65歳のシニア層のニーズを的確に把握し、積極的な地域活動に巻き込む事業展開が必要。
4	すこやか長寿夫婦表彰事業	高齢者福祉課	771	現状維持	事業は維持するが、現行の記念品、個人的な祝い事となる事業として適するのかが検討をする必要がある。
5	湯処・語らい亭	高齢者福祉課	1,308	現状維持	経営者の高齢化に伴い、実施が難しい浴場数が増えている。企画、PRの改善による参加人数の増加を検討していく必要がある。
6	高齢者にここに入浴デー事業	高齢者福祉課	90,571	現状維持	廃業・休業の浴場の増加により、1か所当たりの利用人数が急増していると言われ、事業運営が機能しなくなってきた。実態を見極め、事業方法の見直しが必要である。
7	長寿マッサージ	高齢者福祉課	5,404	現状維持	長期的な事業継続の視点から、あり方を検討する必要がある。
8	梅若ゆうゆう館管理運営事業	高齢者福祉課	33,857	現状維持	介護予防における元気高齢者施設の役割と隣接施設のデイサービス事業との連携による事業展開を充実させていく。
9	立花ゆうゆう館管理運営事業	高齢者福祉課	34,169	現状維持	高齢化に伴う団体・サークルの減少に対し自主事業・講座等の強化、新たな団体等の立上げの支援が必要。
10	いきいきプラザ管理運営事業	高齢者福祉課	74,349	現状維持	より多くの方が利用できるような工夫をしつつ、利用者の満足度を高めていく。
11	長寿者に対する祝金の贈呈事業	高齢者福祉課	23,205	現状維持	今後、対象者が増加するため、対象要件や贈呈方法を検討する必要がある。また、贈呈に協力する民生委員の負担に対し効率的な方法も模索する必要がある。
12	シルバー人材センター補助事業	高齢者福祉課	101,996	現状維持	従来以上に高齢期の生きがい対策と担い手としての就労支援の役割が求められているため、継続が必要。
13	老人クラブ指導者活動	高齢者福祉課		現状維持	特別区で一番多いクラブ数を持つ本区において、クラブ全体を人的に支援する必要がある。
14	老人クラブ連合会助成事業	高齢者福祉課	14,254	現状維持	新たな会員の獲得や各クラブの運営に対し、区として連合会を支援する必要がある。
15	老人クラブ運営助成事業	高齢者福祉課	36,798	現状維持	会員の獲得や高齢化したクラブの運営など、今後のクラブの支援のあり方の検討が必要である。
16	姉妹区提携高齢者交流大会	高齢者福祉課	391	改善・見直し	本事業で実施するゲートボール大会では、競技人口が減少している。新たな事業の取り込みなど両区で検討する必要がある。

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

事務事業名	高齢者補聴器購入費助成事業		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	高齢者補聴器購入費助成事業費		執行実績報告書ページ	84

1 事業の概要

65歳以上の住民税非課税で所定の聴力基準を満たす方に対して、補聴器の購入に要する費用を一部助成(上限2万円)します。	事業開始年度	平成27年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
65歳以上の住民税非課税の方で、所定の聴力基準を満たす方	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
補聴器購入費の一部助成	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
家族や友人とのコミュニケーションを確保することにより、積極的な社会参加を促す	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	支給決定者	人	目標値			
			実績値			39
成果指標 (目的に対する指標)	支出件数	件	目標値			
			実績値			27
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
27年度から開始した事業であり、事業開始が9月だったため、比較対象がなく分析が難しい。今後、後期高齢者の増加が見込まれることから、支給者数は増加が予想される。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度 歳出予算額	2,000	27年度 歳出決算額	540	27年度 執行率	27.0%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無		使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価
<p>以前から助成を求める意見があり、開始した事業である。 聴力機能が低下してくると、人と話すことがおっくうになり、家に閉じこもりがちになってしまうため、閉じこもり防止と積極的な社会参加を促すことが、ひいては健康寿命を延ばすことにもつながると考えられる。</p>			
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価
<p>事業開始したばかりで、実績の変化を想定することは難しいが、事業が認知されていくと実績は上昇すると思われる。</p>			
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価
<p>補聴器は高額であり、区の助成額は購入額全体の一部であるため、受益者負担は適正である。</p>			
(4)現状と課題	<p>開始したばかりの事業であるため、今後も事業周知が必要である。</p>		

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>新規事業のため、しばらくは現行の対象要件で事業を実施していく。 日常生活上のコミュニケーションを確保するとともに、引きこもりの防止を図るなど積極的な社会参加を促すことを目的としており、高齢者の健康寿命を延ばすこと、生活向上の一助になると考えられる。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>事業開始したばかりなので継続実施するが、今後一定期間が経過した後は、見直しの検討が必要になる。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	高齢者と園児のふれあい給食		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	ふれあい給食事業助成		執行実績報告書ページ	80

1 事業の概要

平成2年度から墨田区ふれあい給食事業助成交付金要綱に基づき実施。 平成14年度に年齢要件を、平成18年度には実施回数を緩和し、事業の充実を図ってきた。現在私立保育園6園に対して経費の一部を助成している。 【現在の助成内訳】ふれあい給食実施：食材料費200円/食、事務費3,500円/回、生きがい教室：運営費8,000円/回	事業開始年度	平成2年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか						
おおむね65歳以上の高齢者		に対して				
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
生きがい教室やふれあい給食を実施する私立保育園に事業費の助成		を実施したことで				
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか						
保育園児との世代間交流を通して、高齢者の孤独感が解消され、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れている。		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	事業の参加延人数	人	目標値	4,922	4,994	3,802
			実績値	3,788	4,134	3,741
成果指標 (目的に対する指標)	実績数が目標値の9割以上	%	目標値	90%	90%	90%
			実績値	77%	82.8%	98.4%
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
保育園児との世代間交流を通して、高齢者の孤独感が解消され、地域社会との交流が進むとともに、生きがいを持った生活が送れている。 併せて、定期的に事業に参加することで、異変の気づきなどが早期に発見できる「見守り」としての視点も期待される。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度歳出予算額	2,807	27年度歳出決算額	2,728	27年度執行率	97.2%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	食材料費200円を除いた経費			収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区ふれあい給食事業助成金				
27年度実績額	2,728	28年度予算額	2,807	対象	私立保育園6園	
開始年度	平成2年度	根拠法令	墨田区ふれあい給食事業助成金交付要綱			
算定基準		補助率	食材料費200円/食、事務費3,500円/回、生きがい教室運営費8,000円/回			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>超高齢社会の進展による高齢者数増加が見込まれる中、「地域包括ケアシステム」の中核をなす地域力(互助)の強化が必要となっている。 本事業では地域に根差した私立保育園が実施する事業を推進させることで、地域力が高まり、高齢者が安心して住み続けられる地域が構築される。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>平成27年度は活動指標の目標値を適正化したことにより、成果指標の目標値が達成できたことで、施策目標が達成されたといえる。しかし、実施している6か所の私立保育園が遠いなどの理由で参加できない区民について、公平性を担保する必要がある。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>ふれあい給食事業を生きがい教室と同日開催とすることで効率的な実施をしている。 各園の実績値は園の規模の差などから、実施数、参加者数の多寡だけでは効率性を測れない。</p>				
(4)現状と課題	<p>本事業は実施する私立保育園数及び参加者数の増加が目的達成レベルの向上及び公平性を高めることになるが、実施するには保育園の業務負担になることもあり、実施園・参加者数増加の取組は一朝一夕にはいかない。 まずは区内私立保育園にアンケート等によるリサーチが必要と思われる。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>近年、地域から孤立することにより閉じこもりや孤立・孤独死が社会問題となっていることから、本事業による孤独感の解消、地域との交流促進及び世代間交流は欠かせないものである。 今後、短期的には現状を的確に把握する取組を進め、今後の保育施策や人口動態を踏まえた中長期計画を立てる必要がある。</p>
今後の方向性(見直しの視点)	<p>短期的には現状を的確に把握する取組を進め、今後の保育施策や人口動態を踏まえた持続可能性の高い事業計画を立てていく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	セカンドステージ支援事業		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	セカンドステージ支援事業		執行実績報告書ページ	83

1 事業の概要

平成13年6月～平成15年3月に「墨田区定年後セカンドライフ検討委員会」にて検討を行い、「定年後の社会参加のしくみづくり」への提言(墨田区定年後セカンドライフ検討委員会報告書)をまとめた。翌年、平成14年9月、セカンドライフの生きがいづくりを目的とし、高齢者が地域で活動するための団体「てーねん・どすこい倶楽部」が発足し、平成19年NPO法人となった。同法人には現在セカンドステージセミナー等の業務を委託している。	事業開始年度	平成14年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
会社等を定年退職した元気高齢者(おおむね55歳以上)	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
NPO法人で「てーねん・どすこい倶楽部」に委託して、シニアメールマガジン、情報誌やシニアボランティア講座で情報提供を行い、セカンドステージセミナーや生きがい講座など地域に出かけるきっかけづくり、及びシニア人材バンクで高齢者が活動できる場の提供	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
高齢者が現役世代とともに、地域において支える側として生きがいを持って活動していく。	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	セカンドステージセミナー参加者	人	目標値	920	920	920
			実績値	749	724	836
成果指標 (目的に対する指標)	シニア人材バンク派遣件数	件	目標値	250	250	250
			実績値	236	231	185

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

先述の「てーねん・どすこい倶楽部」は平成19年4月NPO法人となり、自主事業の拡充等が図られている。また、セカンドステージセミナーや生きがい講座等の各種事業の実績も年々増加してきており、高齢者が地域に出かけるきっかけづくりとなっている。
シニア人材バンクによる派遣は、てーねん・どすこい倶楽部のボランティア活動が地域に浸透してきており、一時的なものより定期的・定例的なものが増えている。現在派遣先を増やすことが新たな人材確保とともに大きな課題となっているので、シニアボランティア講座等を通じて事業拡大を図っていく。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度歳出予算額	2,911	27年度歳出決算額	2,911	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	有	無	有		2,914
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>今後、より一層の高齢化が見込まれることから、元気な高齢者の社会参加意欲を掘り上げる場を提供するため、事業を実施していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>各種講座や情報誌等を発信することで、高齢者にとってセカンドステージにおける暮らし方、ライフワークの見つけ方に関するヒントを得られるものとして有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>区で行う同様の事業と統合の余地がある。 また、受益者負担にはならない。</p>				
(4)現状と課題	<p>元気な高齢者の意欲を有効に活用するためのニーズ調査、コーディネート方法を模索するとともに、昨今の時代状況を踏まえた情報発信の方法についても検討するしていく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>今後、高齢化の進行により、事業に対するニーズが高まることが予測される。さらに、団塊の世代の高齢化により、シニア層の価値観の多様化が予想されるため、提供するコンテンツ等も、状況に合わせていく必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>積極的な地域活動が期待できる層(退職後間もない55~65歳のシニア層)を巻き込んでいくために、当該シニア層のニーズを的確に把握する必要がある。 さらに、ニーズに見合うコンテンツ作りや、情報発信方法の工夫が求められる。 また、事業委託先であるてねん・どすこい倶楽部には、今後一層自主自立的な運営が求められる。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	すこやか長寿夫婦表彰事業(金婚を迎えた夫婦を表彰)		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	すこやか長寿夫婦表彰事業経費		執行実績報告書ページ	83

1 事業の概要

墨田区すこやか長寿夫婦表彰事業実施要項 長年人生をともに過ごされたご夫婦へのお祝として、結婚50年以上のご夫婦に記念品を贈呈する。	事業開始年度	平成18年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住の婚姻50年以上の夫婦					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
希望者に、該当夫婦の氏名が刻まれたクリスタル楯を支給					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
長年人生をともに過ごし金婚を迎えた夫婦が、周囲の高齢者の励みとなる。					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	表彰件数	件	目標値		130	140
			実績値	128	121	150
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
<p>平成12年度末に終了した「長寿健康顕彰」を受けられなかった者からの申請が、平成18年度は714件あったが、平成19年度には114件と大幅に減少した。 「たんぼぼ」が更新される年は、申請数が増加する傾向にあり、更新のあった平成24年度は前年比3割程増加したが、翌年平成25年度は減少し、平成26年度の申請数は横ばいの状況である。 平成27年度は「たんぼぼ」が更新されるため、申請数が増加したと思われる。</p>						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度歳出予算額	720	27年度歳出決算額	771	27年度執行率	107.1%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
申請件数は横ばいであり、必要性がないとは言えないが、予算上の優先順位は低いと思われる。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
安定した申請件数があり、効果的に実施されている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
表彰事業のため、受益者負担はなじまない。				
(4)現状と課題	他区の状況をもみても実施している区は少なく、また厳しい財政状況の中で今後存続すべき事業か検討の余地がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	高齢者の励みとなる表彰制度であり、区民から感謝されることも多い事業ではあるが、個人的な祝い事であり、存続すべき事業か検討する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	表彰物としてクリスタルの重い盾が妥当かどうか、個人的な祝い事を対象とすべきか等、今後存続すべき事業か引き続き検討をしながら、当面は現行制度を維持する。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	湯処・語らい亭		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	湯処・語らい亭事業費		執行実績報告書ページ	79

1 事業の概要

平成14年6月事業開始。毎月第1・3金曜日に実施。 平成18年から実施日を各浴場で決定。	事業開始年度	平成14年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
高齢者(区内外問わず)ただし、半数は区内の高齢者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
区内の開店前の公衆浴場の脱衣所等で、趣味の披露、演芸、健康体操などの催し物の開催	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
閉じこもり防止や地域との交流が図られ、介護予防にもつながり地域で元気に生き生きと暮らせる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	実施回数	回	目標値	330	180	150
			実績値	130	106	109
成果指標 (目的に対する指標)	参加延べ人数	人	目標値		2,160	1,000
			実績値	1,129	973	905

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

経営者の高齢化やスペース等の関係で実施できない浴場もあるが、実施可能な浴場では毎月実施している浴場もある。 浴場数の減少により、実績が大幅に減少しているが、参加人数の平均値は横ばい。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度 歳出予算額	1,800	27年度 歳出決算額	1,308	27年度 執行率	72.7%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 無		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
地域に身近である公衆浴場を開放することにより、高齢者の交流を図る場となるため				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
実施浴場数は減少しているが、一か所あたりの参加人数は増加している				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
事業の実施方法に検討の余地がある				
(4)現状と課題	催し物の企画がマンネリ化しつつあるため、事業展開が横ばいである。魅力ある企画をする必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	経営者の高齢化に伴い、実施が難しい浴場が増加している。 高齢者が参加してみたいと思う企画については、区が情報提供するなど協力体制を整え、経営者に働きかけることで実施浴場数を増やし、参加人数の増加を検討していく必要がある。「公衆浴場」という場が、地域交流において有用であることから、事業の改善を図る必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後も実施浴場の減少や経営者の高齢化による減少傾向が続くと思われるが、地域の交流の場となっているため事業は継続していく。ただし、企画の内容やPR方法については改善、検討していく必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	高齢者にこここ入浴デー事業		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	こここ入浴デー事業費		執行実績報告書ページ	79

1 事業の概要

昭和50年にとの入浴券を交付。昭和54年に所得制限設定。平成6年に菖蒲湯、ゆず湯、敬老の日をふれあい入浴とし、平成18年に家庭の日、ふれあい入浴を半額自己負担とする。平成20年に所得制限を撤廃した。	事業開始年度	昭和50年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
65歳以上の区民(特別養護老人ホーム入所者は除く)	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区内の公衆浴場を毎週金曜日は無料、特定日は半額で利用できる入浴証の発行・利用してもらうこと	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
多くの高齢者が公衆浴場に集まり、健康増進や地域とのふれあいを通じて、元気で生き生きと暮らせる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	実施回数	回	目標値	2,412	1,943	1,619
			実績値	2,009	1,795	1,572
成果指標 (目的に対する指標)	延べ人数	人	目標値	/	291,450	318,668
			実績値	332,866	329,505	306,754
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
廃業や休業の浴場が増え、利用者の減少がみられるが、毎週利用している人も多い。そのため高齢者の健康増進に役立つだけでなく、顔見知りが増え地域でのふれあい、高齢者相互や地域ぐるみの見守りの役割を担っている。その一方で、廃業・休業により、近くに浴場がない地域ができてしまっている。また、浴場一か所あたりの利用人数が急増し衛生上の管理も含め、事業の運営が機能しなくなっている現状があるため、事業の刷新を図る必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度歳出予算額	91,753	27年度歳出決算額	90,571	27年度執行率	98.7%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有	/	
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
公衆浴場が地域コミュニケーションの場として有用であるため				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	低い
浴場数の減少により、全体の利用者数は減少しているが、1浴場あたりの利用者は増えているため				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
浴場数の減少により、1浴場あたりの利用者が増大しており、経営者の負担が増えているため				
(4)現状と課題	浴場の減少により、1か所あたりの利用人数が増大していることにより、浴場組合の負担が増えている。衛生上の管理にも影響が生じており、事業方法に検討の余地がある。また、廃業・休業により、近くに公衆浴場がなくなっている地域もあり、偏りが出ている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区内公衆浴場を高齢者に無料開放することにより高齢者の健康増進と世代間のふれあいと交流を図る事業として定着している。一方で、燃料代の高騰や経営者の高齢化により浴場数は減少している。しかし、地域の交流の場として毎週楽しみにしている区民も多いため、事業は継続をしていくが、運用方法を検討する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	年々実施浴場数が減少してきている。今後も後継者不足や燃料の高騰が続けばさらに減少することが予想されるため、事業運営の検討の余地がある。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年10月30日
	要旨	質問:事業内容が近隣の自治体と墨田区とではばらばらで、墨田区は金曜日が無料だが、近隣では常に安い金額にして一年中利用できる区もあるようだ。墨田区は金曜日を無料にするという考え方を改めて示してほしい。区では公衆浴場を活用し、高齢者に無料開放することでの健康維持と閉じこもり防止、ふれあい交流を目的に、実施している。 回答:本区ではふれあいを第一の目的としているので、事業開始以来、金曜日ということで定着して進めている。当該制度については、毎年、対象者が増えており、その一方で、区内の公衆浴場の数は、諸般の社会情勢等で減っている中、事業を実施しているところである。併せて、各公衆浴場にご意見、ご要望等が寄せられているのも事実で、そういった利用者の声も十分参酌し、参考にして、この事業が今後も継続できるように努力していきたい。

事務事業名	長寿マッサージ		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	長寿マッサージ事業		執行実績報告書ページ	79

1 事業の概要

年度決定により各地域の長寿室の外、高齢者福祉センター等の計15施設に登録している元気高齢者を対象に実施している。 施術については、墨田区視覚障害者福祉協会へ事業を委託することにより、障害者の雇用創出の一端を担う事業となっている。	事業開始年度	昭和53年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
墨田区在住の60歳以上の高齢者で、長寿室を利用できる者		に対して				
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
視覚障害者福祉協会の協力のもと、マッサージを実施し心身の慰労の行い		を実施したことで				
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
高齢者が心身ともに健康に過ごす		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	利用者数	人	目標値			2,016
			実績値	1,961	2,015	1,971
成果指標 (目的に対する指標)	実施回数	回	目標値			504
			実績値	492	504	499
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
計画通りに実施された。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度歳出予算額	5,466	27年度歳出決算額	5,404	27年度執行率	98.9%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		長寿マッサージ補助金				
27年度実績額	133	28年度予算額	156	対象	墨田区視覚障害者福祉協会、浮嶋 ツネ 他	
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
施設の建替え等により、施術場所が限られたため目標値には達していないが、平均は横ばいである。 また障害者の雇用創出の一端を担っている事業であるため。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
利用者の要望も多い。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
三療券事業などの類似事業がある。				
(4)現状と課題	会場の確保、施術者の高齢化、利用者の物忘れによるキャンセルの調整が課題となっている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	高齢者に対してマッサージ施術を行うことにより、健康増進に寄与するものである。また、施術は協力という形で墨田区視覚障害者福祉協会の会員に報償という形で謝礼を払い実施しているが、これは障害者の雇用創出の一端を担う事業ともなっている。利用ニーズもあり、現状の事業規模を継続すべきと判定する。
今後の方向性 (見直しの視点)	施術者の高齢化が進行する中、既存の態勢での事業実施が困難になった場合は、現在依頼先以外で本事業の受託ができる団体を探す、事業を縮小する、廃止する等の対応が必要になる。また、施設の建替え統合などで、会場となる長寿室がなくなることも想定されるため、多角的な視点で事業のあり方を検討する必要がある。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	梅若ゆうゆう館運営事業		所管課・係	高齢者福祉課相談係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6171
予算書名称	高齢者福祉センター運営経費(梅若ゆうゆう館)		執行実績報告書ページ	82

1 事業の概要

平成6年墨田区高齢者福祉センター条例 平成12年4月 開設 平成18年度第1期指定管理者: 墨田区社会福祉事業団(平成23年3月31日まで) 平成23年度第2期指定管理者: 墨田区社会福祉事業団(平成28年3月31日まで) 平成28年度第3期指定管理者: 墨田区社会福祉事業団(平成33年3月31日まで)	事業開始年度	平成18年度
	終了予定年度	無し

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
60歳以上の高齢者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
管理運営業務を指定管理者に委託し、健全な管理運営を行う。	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者が社会参加や自己実現を図る。	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	モニタリング実施回数	回	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	3
成果指標 (目的に対する指標)	延利用者人数	人	目標値	40,000	43,000	43,000
			実績値	41,993	41,740	43,491
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
施設貸出しにとどまらず、健康推進事業や各種教養講座などの自主事業比率を上げ、参加しやすいプログラムの拡充を図っている。また、会食事業の実施やボランティア活動支援などを行っており、高齢者の介護予防と地域交流の促進に力を入れている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度 歳出予算額	35,525	27年度 歳出決算額	33,857	27年度 執行率	95.3%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
元気高齢者の健康増進事業や地域住民との交流の場として、高齢者福祉の充実に必要なため。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
サロン利用者は減少傾向にあるが、花体操への参加や自主サークルの利用が増加しており、事業目的に結びついているため。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
指定管理料がほぼ同額のなか、施設利用者数が増加しているため。				
(4)現状と課題	利用者の意向調査や満足度調査により、介護予防における元気高齢者施設の役割と事業活動をさらに充実させていくこと。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	元気高齢者が健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動を通じて社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されており、利用者数も安定しているため。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者の意向調査や満足度調査を行い、さらに利用者が増加するような事業の提案及び充実を図っていく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年12月頃 第四回定例会・福祉保健委員会	
	要旨	墨田区社会福祉事業団に対する評価、理事長の人事、新たな事業展開等について	

事務事業名	立花ゆうゆう館運営事業		所管課・係	高齢者福祉課相談係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6171
予算書名称	高齢者福祉センター運営経費(立花ゆうゆう館)		執行実績報告書ページ	82

1 事業の概要

平成6年11月墨田区高齢者福祉センター条例により設置 平成18年度第1期指定管理者: 墨田区社会福祉事業団(平成21年3月31日まで) 平成21年度第2期指定管理者: てーねん・どすこい倶楽部(平成24年3月31日まで) 平成24年度第3期指定管理者: てーねん・どすこい倶楽部(平成29年3月31日まで)	事業開始年度	平成18年度
	終了予定年度	無し

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
60歳以上の高齢者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
管理運営業務を指定管理者に委託し、健全な管理運営を行う	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者が社会参加や自己実現を図る	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	モニタリング実施回数	回	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	3
成果指標 (目的に対する指標)	延利用者人数	人	目標値	54,000	60,000	60,000
			実績値	64,335	59,863	55,302
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
経年経過に伴う高齢化により、既存団体・サークルは活動人数が減少している。一方で、パソコン講座や新規講座の開催、介護予防を目的とした筋トレ&ストレッチ体操、ウォーキングなどの参加しやすい事業の比率を上げ、自主事業の利用者数は継続的に増加している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度歳出予算額	34,192	27年度歳出決算額	34,169	27年度執行率	99.9%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
元気高齢者の健康増進事業や地域住民との交流の場として、高齢者福祉の充実に必要なため。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
利用者のニーズを取り入れた魅力的な事業の展開により、利用者数が安定しているため。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
経費が増加することなく運営ができているため。				
(4)現状と課題	高齢化に伴う団体・サークルの減少に対し、引き続き自主事業・講座等を強化して、新たな団体・サークルの立ち上げ支援を行っていくこと。また関係機関との協力や連携事業を図り、介護予防と地域づくりの活動をさらに充実させていくこと。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	元気高齢者が健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動を通じて社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されており、利用者数も安定しているため。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者数が若干減少している中で、今後は当該施設が担うべき社会的役割(就労支援、仲間づくり等)や、利用者ニーズに対応した事業を取り入れ、より多くの方が利用できるような工夫をしつつ、利用者の満足度の向上に努めていく必要がある。また、経年劣化による修繕を計画的に実施していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	元気高齢者施設「いきいきプラザ」の管理運営事業		所管課・係	高齢者福祉課相談係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6171
予算書名称	元気高齢者施設「いきいきプラザ」管理運営費		執行実績報告書ページ	83

1 事業の概要

平成16年12月いきいきプラザ条例に基づき開設 平成16年度第1期指定管理者：ワーカーズコープ(平成20年3月31日まで) 平成20年度第2期指定管理者：ワーカーズコープ(平成25年3月31日まで) 平成25年度第3期指定管理者：ワーカーズコープ(平成30年3月31日まで)	事業開始年度	平成16年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
主に元気高齢者					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
管理運営業務を指定管理者に委託し、健全な管理運営を行う。					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
高齢者自身が参画・活動できる事業を実施し、元気高齢者の社会参加や自己実現を図る					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	モニタリング実施回数	回	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	3
成果指標 (目的に対する指標)	延利用者人数	人	目標値	60,000	60,000	60,000
			実績値	64,401	64,988	66,489
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
高齢者向きのマシンを使った筋力向上トレーニング等の健康増進事業やパソコン教室、健康麻雀、会食会等の生きがい活動を行っている。利用者数は年々増加しており、目標値を充足している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費	
27年度歳出予算額	74,357	27年度歳出決算額	74,349	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			74,201
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	施設利用料			収入額	830,010
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準			補助率				

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
元気高齢者の健康増進事業や地域住民との交流の場として、高齢者福祉の充実に必要なため。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
利用者のニーズにあった魅力的な自主事業の展開により、利用者が継続して増加しているため。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
指定管理料が前年度と同額であるが、事業実績が上昇しているため。				
(4)現状と課題	施設利用が飽和状態にある中で、ボランティアと協同し、介護予防活動の拠点としての講座や事業をより多くの方が利用できるように工夫して実施していくこと。また、他世代交流の事業の促進、地域の孤立した高齢者の利用の促進を行っていくこと。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	元気高齢者が健康で仕事やボランティア、生涯学習、余暇活動を通じて社会参加と自己実現を目指せる拠点として認知されており、利用者数も着実に増加しているため。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者数が着実に増えている中で、今後は当該施設が担うべき社会的役割(就労支援、仲間づくり等)や、利用者のニーズに対応した事業を取り入れ、より多くの方が利用できるような工夫をしつつ、利用者の満足度の向上に努めていく必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	長寿者に対する祝金の贈呈事業		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	長寿者に対する祝金の贈呈事業費		執行実績報告書ページ	79

1 事業の概要

墨田区長寿者祝金贈呈事業実施要綱(昭和63年度)	事業開始年度	昭和63年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内に居住している最高齢者、百歳、米寿(数え)、喜寿(数え)の方	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
最高齢者には、毎年男女1名ずつ区長が訪問し、表彰する。百歳の方には、福祉保健部長が訪問する。米寿・喜寿の方には、各地域の民生委員が祝金を贈呈	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
長年にわたり社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し、長寿を祝うことで福祉の増進を図る	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	喜寿・米寿	人	目標値		3289	3496
			実績値	3,503	3,161	3,344
成果指標 (目的に対する指標)	百歳	人	目標値		53	66
			実績値	39	38	41
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
概ね、目的は達成されている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度 歳出予算額	23,450	27年度 歳出決算額	23,205	27年度 執行率	99.0%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	低い
事業に対するニーズは横ばいであり今後もこの傾向が続くと考えられる。 多くの贈呈者に喜ばれていることから、事業を実施する理由はあると考える。 この事業を中止した場合の影響は中程度であると考え。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	低い
後期高齢者の増加により指標の実績値はも増加している。 喜寿・米寿・百歳のお祝いを楽しみにしている区民も多くなる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	非効率
関連・類似事業との統合が検討可能である。事業にかかる経費は増加しており、 受益者負担については、事務の負担が大きく、検討する必要がある。				
(4)現状と課題	支給対象者は増加の一途をたどることが予想される。民生委員不在地区については、区職員が対応しており負担が大きい。また、お祝いという私的なものに対して公費を使うことが手段として適切かどうかについては検討する必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	喜寿米寿の祝い金は、区民に浸透しており、急に制度を変えることは難しい。区民のニーズを吸い上げたうえで、事業内容を検討する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	超高齢社会を迎え、今後とも支給対象者は増加の一途をたどることが予想されるため、贈呈対象・年齢や贈呈方法を検討する必要がある。検討する際には、綿密な区民のニーズ調査に基づいて検討する必要がある。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	シルバー人材センター補助事業		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	シルバー人材センター運営助成費		執行実績報告書ページ	78

1 事業の概要

和49年12月 東京都高齢者事業団設立 昭和55年 7月 墨田区高齢者事業団設立 同12月 社団法人化 昭和56年 補助事業開始 平成 2年 社団法人墨田区シルバー人材センターと名称変更 平成23年 4月 公益社団法人化	事業開始年度	昭和56年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
公益社団法人墨田区シルバー人材センター					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
シルバー人材センターに事補助金を交付するとともに、同団体の法人運営・事業展開に関与する。					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
シルバー人材センターの事業運営を円滑にし、センターを充実・発展させることを通じて、元気な高齢者がこれまで培ってきた経験や知識を活かして地域で働きながら健康で生きがいをもった生活を継続する環境づくりを行う。					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	シルバー人材センター会員登録者数		人	目標値			
				実績値	1,895	1,930	1,762
成果指標 (目的に対する指標)	契約金額(受託額)		千円	目標値			
				実績値	768,182	785,309	783,450
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度 歳出予算額	102,676	27年度 歳出決算額	101,996	27年度 執行率	99.3%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		公益社団法人墨田区シルバー人材センター補助金				
27年度 実績額	101,995	28年度 予算額	101,923	対象	公益社団法人墨田区シルバー人材センター	
開始 年度	昭和56年度	根拠法令	公益社団法人墨田区シルバー人材センター補助金交付要綱			
算定基準				補助率	事務局職員人件費 及び 管理運営費の一部	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
高齢者の就業要望は高く、社会的にも労働力としてニーズが高い。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
高齢者の就業提供の場として有効に機能している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
人件費・管理運営費の一層の縮減を図っている。				
(4)現状と課題	平成23年度から公益社団法人となり、一層の新規就労開拓や組織運営の健全化が求められている。また、年金の受給開始年齢が引上げ(60歳 65歳)られることに伴い、従来以上に高齢期の就労支援の役割が求められている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	高齢者に就業機会を与えるとともに、働くことを通じて高齢者の生きがいと健康づくりをすすめるなど、墨田区シルバー人材センターの担う社会的役割はますます重要になることが考えられる。 また、国においては、シルバー会員の労働時間の規制を緩和する流れもあり、シルバー層の活用が一層推進されることが予想される。
今後の方向性 (見直しの視点)	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度改正に伴い、家事援助サービスに対するニーズが増大することが予想されるので、これに対応できる人材の確保・育成が求められる。 公益社団法人化に伴い、センターには、行政からの支援に頼らない自主・自立的な運営が求められている。そのためには、会員の質を一層向上させる必要があるため、事務局には人材育成の視点が求められる。 		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	老人クラブ指導者活動		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	老人クラブ運営助成事業		執行実績報告書ページ	78

1 事業の概要

昭和53年に指導員1名を配置する。 平成20年度に非常勤職員から再任用職員へ変更する。	事業開始年度	昭和53年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
墨田区老人クラブ連合会及び単位老人クラブ		に対して				
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
指導員の配置		を実施したことで				
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
墨田区老人クラブ連合会及び単位老人クラブの活動内容をより充実させるとともに、事業の円滑な運営を図るため適切な助言・指導が実施できる		状態にする。				
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	指導員数	人	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	1
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	項	目	28年度
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源
使用料等の収入の有無	平成20年度に、指導員が非常勤職員から再任用職員に変更されたことに伴い、事業所管課での予算措置はなくなった。			
補助金名称	*複数ある場合は代表的			
27年度 実績額		28年度 予算額		対象
開始 年度		根拠法令		
算定基準				補助率

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
指導員による墨老連運営等の指導が必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
事務局に再任用職員を配置し、区と関連を持って事業を行っている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
指導員の各事業に対する指導・助言により墨老連活動が活発になっている。				
(4)現状と課題	連合会事務局運営や区内152クラブへの指導、助言など指導員への負担が増えてきている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	単位クラブ役員の高齢化も進んでいることから、従来以上に事務局が運営の助言・相談に応じられる態勢が求められていることを踏まえると、現状の体制を当面継続すべきと考える。
今後の方向性 (見直しの視点)	国が提唱する「地域包括ケアシステム」を具現化するにあたっては、老人クラブが従来以上に地域で大きな役割を果たしていくことが求められる。そのためにはクラブの活動支援を専門的に担当できる職員の存在は不可欠である。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	老人クラブ連合会助成事業		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	老人クラブ運営助成事業		執行実績報告書ページ	78

1 事業の概要

昭和48年 墨田区老人クラブ連合会助成要綱制定	事業開始年度	昭和48年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
墨田区老人クラブ連合会					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
墨田区老人クラブ連合会へ助成金の支出					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
老人クラブ連合会の事業が財政的に安定して実施でき、高齢者福祉が増進する					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	墨老連事業参加人数		人	目標値			
				実績値	22,165	21,998	23,861
成果指標 (目的に対する指標)	墨老連関係事業数		事業	目標値			
				実績値	96	99	93
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
区内152の単位クラブにおいて、社会奉仕・生きがいづくり・健康づくり等の活動が行われ、また、友愛訪問活動については延べ約46,000回が実施され、地域を主体とした見守りネットワークの構築にも貢献するなど、区高齢者福祉の貢献に寄与した。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費	
27年度歳出予算額	14,272	27年度歳出決算額	14,254	27年度執行率	99.9%	28年度歳出予算額	11,882
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区老人クラブ連合会助成金					
27年度実績額	14,254	28年度予算額	14,272	対象	墨田区老人クラブ連合会		
開始年度	昭和48年度	根拠法令	墨田区老人クラブ連合会助成要綱				
算定基準				補助率	高齢者福祉大会、会報発行、ゲートボール大会、次代に継ぐ平和のかたりべ事業、高齢者の生きがいと健康づくり事業、健康教室事業、事務局人件費に係る経費を補助している。		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	
高齢者に活動の場を提供している				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
各事業を通し高齢者福祉に寄与している				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
墨老連事務局が調整しながら、各事業の内容重複に留意し、多角的に実施している。				
(4)現状と課題	老人クラブ会員の高齢化に伴い実施事業内容・方法の見直しが必要である。また若年高齢者の加入促進を連合会として推進していくことが求められる。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	墨田区老人クラブ連合会が果たしてきたこれまでの地域活動への貢献と、今後への期待を考慮すれば事業継続が望ましい。
今後の方向性 (見直しの視点)	いわゆる「団塊の世代」が高齢期に入り、従来とは違った多岐な価値観をもつ高齢者が老人クラブ活動に参加できるような取組を強める必要がある。そのような活動を支援するためには、専属事務局の果たす役割がますます重要になってくる。また、介護保険制度改編に伴い、地域で求められる活動の幅が広がる中、連合会としてリーダーシップを発揮し、方向性を指し示していく必要性もある。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	老人クラブ運営助成事業		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	老人クラブ運営助成事業		執行実績報告書ページ	78

1 事業の概要

昭和40年に墨田区老人クラブ助成要綱を制定する。 昭和60年に特別事業助成金を追加する。 平成12年に助成金額を減額する。	事業開始年度	昭和40年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
単位老人クラブ					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
会員数に応じた助成金の支出					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
単位老人クラブを財政的に支援し、活発な活動を展開させる					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	老人クラブ会員数		人	目標値			
				実績値	13,733	13,404	13,181
成果指標 (目的に対する指標)	単位老人クラブ数		クラブ	目標値			
				実績値	154	154	152
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
区内152の単位クラブにおいて、社会奉仕・生きがいづくり・健康づくり等の活動が行われ、また、友愛訪問活動については延べ約53,000回が実施され、地域を主体とした見守りネットワークの構築にも貢献するなど、区高齢者福祉の貢献に寄与した。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費	
27年度歳出予算額	37,759	27年度歳出決算額	36,798	27年度執行率	97.5%	28年度歳出予算額	37,468
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区老人クラブ助成金					
27年度実績額	36,755	28年度予算額	37,716	対象	区内単位老人クラブ152クラブ		
開始年度	昭和40年度	根拠法令	墨田区老人クラブ助成要綱				
算定基準				補助率	社会奉仕活動、健康増進活動、生きがいを高める活動、クラブの運営、多世代との交流に係る経費を補助している。		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
地域の社会資源として、高齢者が生きがいをもって過ごすことのために果たす役割が従来以上に高まっている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
ライフスタイルの変化等により老人クラブ会員数は横ばい状態だが、目標達成の代替手段はない。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
地域での自主活動に財政的支援をしていることから、設問の回答になじまない。				
(4)現状と課題	老人クラブ会員の高齢化が進み、会員数の減少傾向にある。また、これまで地域とのつながりが薄かった住民へのアプローチに工夫が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	単 位老人クラブは、町会・自治会と比肩する大きな役割を果たしており、今後も友愛訪問活動等地域を支える担い手として期待をされている。以上を踏まえると、従来通りの支援体制を維持することが妥当である。
今後の方向性 (見直しの視点)	単位老人クラブの活動状況も、クラブによってかなり差が生じている現状がある。地域の担い手として積極的な取り組みを促すよう、補助金額に活動実績でランク付けをする等インセンティブが発生する制度設計が必要になってくる。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	姉妹区提携高齢者交流大会(ゲートボール)		所管課・係	高齢者福祉課支援係
施策	441	元気で生きがいに満ちた高齢期を創造する	連絡先	5608-6168
予算書名称	姉妹区提携高齢者交流大会経費		執行実績報告書ページ	79

1 事業の概要

昭和52年に台東区と姉妹区提携する。 昭和57年に第一回姉妹区ゲートボール大会を実施する。 平成14年、出場チームが各区20チーム計40チームから、16チーム計32チームに減。 平成18年、出場チームが各区16チーム計32チームから、12チーム計24チームに減。 平成26年、出場チームが各区12チーム計24チームから、10チーム計20チームに減。	事業開始年度	昭和57年度
	終了予定年度	

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
墨田・台東両区に居住するおおむね60歳以上の方	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
年1回、墨田・台東両区で隔年当番制によるゲートボール大会を実施する。	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
ゲートボールを通じて墨田・台東両区の高齢者の親善交流と健康増進を図り、高齢者の生活を明るく豊かにする。	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	大会参加者数	人	目標値			140
			実績値	160	140	140
成果指標 (目的に対する指標)			目標値			
			実績値			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
台東区と隔年当番制で実施している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	民生費	項	老人福祉費	目	老人福祉費
27年度歳出予算額	430	27年度歳出決算額	391	27年度執行率	90.9%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		307
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	低い
<p>数少ない両区高齢者の交流・親善の場である。 また、ゲートボール競技者が日頃の練習成果を発揮する場として、貴重である。 このため、ゲートボールの競技人口が減少しており、参加チーム数は減少傾向にあるものの、依然として墨田区ゲートボール連合会を始めとした競技者からのニーズは高いものとする。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	低い
<p>必要最小限の経費で、両区高齢者親善の場及び練習成果発揮の場を設けることができている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>運営に関しては、両区実行委員が無償で携わっており、会場使用料等最低限の経費に抑えられている。</p>				
(4)現状と課題	(1)～(3)のとおり			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	(1)～(4)のとおり、事業の必要性、有効性、効率性が高いため。	
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>チーム数が減少すると大会の運営が困難になることを両区老連及びゲートボール連合会とは協議しており、参加会員の拡充にも力を入れていく意向である。しかしながら、状況が変わる場合には、大会の在り方や競技変更なども視野に入れ早期に検討しなければならない。</p>			
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無		
	要旨	無		